

令和3年度(2021年度) 学校評価書

学校名	北海道札幌南高等学校（定時制）
-----	-----------------

学校関係者
学校評議員
5 名

1 学校教育目標

- 1 自然豊かな北方風土の中で、勤労と学業を両立できる強固な意志と逞しい体力を養う。
- 2 基礎学力を高め自己啓発に努めることにより、時代の進展に対応できる能力を養う。
- 3 豊かな情操をもって集団生活に適応し、社会の発展に貢献できる調和のとれた人格を養う。

2 スクール・ミッション

- 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- 社会人としての基礎・基本を身に付け、時代の進展に対応し、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成する。

3 年度の重点目標

新型コロナウイルス感染防止対策と学びの保障を両立させ、本校教育の質の維持・向上を図る。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価	改善・充実の方策	学校関係者評価	
			達成状況		(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	❶基本的な学習態度を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。	①授業規律を確保し、各教科・科目において、基礎・基本の定着を図ることができたか。	B	①全教職員で共通理解を図り、授業規律の保持に努めた。授業公開週間を設定し、教員相互の授業参観により授業改善へつなげた。今後はICTを効果的に活用した授業力向上の取組を推進する。	A	A
	❷個々の生徒の能力・適性・進路等を調査・検討し、個別学習指導を実施する。	②生徒個々のニーズを的確に把握し、授業前学習会や放課後学習会を継続的に実施することができたか。	B	②生徒個々の状況把握に努め、実態に即した放課後学習会や個別添削指導を実施することができた。今後も生徒の理解度に合わせた個別学習を継続する。		
	❸各種検定を奨励する等、三修制の充実を図る。	③高卒認定試験説明会や検定講習会を効果的に実施し、学校外学習単位認定につなげることができたか。	B	③三修制ガイダンス、高卒認定試験や検定試験に向けた個別課題添削指導を計画的に実施した。その結果、合格者13名、三卒5名を輩出した。今後も、継続した指導を行う。		
	学校関係者の意見		・定時制課程の良さを生かして、生徒のニーズに応じた指導と支援をこれからも継続してほしい。 ・ICTを活用した授業力向上の取組も大切であるが、新聞や読書から得る学びも大切にしてほしい。 ・三修制や検定試験へ向けた指導の成果は評価できる。			
Ⅱ 生徒指導	❶「生徒心得」を遵守させ、規律ある生活習慣を確立させる。	①HR担任と教科担任が連携を図り、挨拶・遅刻・欠席等の基本的な生活習慣を確立することができたか。	B	①職員室内で日常的に情報共有を行い、組織的に粘り強い指導ができた。複数の教員による登校時の生徒への呼びかけにより、挨拶がよかった。今後も継続した指導を行う。	A	A
	❷他者を尊重し、「いじめは絶対に許されない」という意識と態度を育成する。	②生徒情報交換会、教育相談等での定期的な情報共有により、積極的に生徒の状況把握に努め、迅速かつ組織的な対応を図ることができたか。	A	②生徒情報交換会及びいじめ防止委員会を定期的に実施した。その結果、教員間で生徒の状況把握と情報共有ができ、迅速かつ組織的な対応ができた。今後も取組を継続する。		
	❸情報モラルを身に付けさせる指導を適切に行い、インターネット社会に必要な態度を育成する。	③SNSに関わるトラブル防止について、HR指導、啓発活動、教員対象の研修等を適切に実施できたか。	A	③リーフレットを活用したHR指導、生徒会役員による生徒への呼びかけを定期的に行った。外部機関と連携したSNSに関する教室を実施した。その結果、大きなトラブルは発生しなかった。今後も取組を継続する。		
	学校関係者の意見		・日常の教職員の情報共有から、迅速かつ組織的な対応で、いじめやSNSに関する大きなトラブルが発生しなかったことは評価できる。 ・引き続き、生徒が安心・安全に学校生活が送れるように取り組んで欲しい。			
Ⅲ 進路指導	❶関係機関との連携や進路情報の提供を充実させ、自ら進路選択する能力を育む。	①企業・学校訪問や進路ガイダンス等により、自らの進路に対する意識を高めることができたか。	B	①札幌高等技術専門学院と連携した体験活動、外部講師4名による進路講演会を実施し、生徒の進路に対する意識を向上させることができた。今後は、職業体験活動の実施へ向けた計画を進めていく。	A	A
	❷各種活動を通して、社会人として必要な言葉遣いや態度を身に付けさせる。	②ボランティア活動や進路学習、個別面談等を通して、社会人としてのマナーを身に付けることができたか。	B	②地域見守りサポーター養成講座、凍結路面への砂撒きボランティア等を実施し、思いやりの心を持って行動することの大切さを認識させることができた。社会に出てからも通用する態度や言葉遣いの育成につながるように今後も継続する。		
	❸生徒の適性・ニーズを的確に把握し、進路支援体制の深化・充実を図る。	③進路相談会や三者面談を計画的に実施し、進路指導部と担任団との連携・強化を図ることができたか。	B	③進路相談員による面談や三者面談の実施により、例年になく4年生の進路意識が高まった。その結果、就職希望生徒の早期からの受験と内定につながった。今後は、キャリア教育を踏まえた系統的な進路指導の充実を図る。		
	学校関係者の意見		・コロナ禍においても工夫して進路の取組を実施できたことは評価できる。 ・コロナ禍で経済状況が厳しい中においても、粘り強く生き抜く力の育成をしてほしい。			
Ⅳ 健康・安全指導	❶自らの心身の健康に対する意識を高め、学業と就労との両立を支援する。	①健康相談や健康診断チェックシートを活用し、自分自身の健康状態を把握することができたか。	B	①セルフチェックシートを活用した健康状態の確認を毎日行った。養護教諭による定期的な健康相談を実施した。その結果、生徒自らの心身の健康に対する意識を高めることができた。今後も粘り強く取組を継続する。	A	A
	❷交通安全や命の尊さを理解させ、交通事故を未然に防止するとともに交通社会の一員としての意識を持たせる。	②体験的な交通安全教室を実施し、自他の生命の大切さや事故防止のための具体的な方策を学ぶことができたか。	B	②コロナ禍の影響で、体験的な活動が実施できなかったが、外部機関と連携して交通安全教室を実施した。今後も実施形態を工夫して、交通社会の一員としての意識を高める取組を推進する。		
	❸学校給食指導を通して、食生活の重要性やマナーを認識させる。	③給食だより等を利用した食育を通して、食に関する知識や興味・関心を持つことができたか。	B	③養護教諭、給食調理員、HR担任が連携し、食に関する適切な支援を行うことができた。今後も給食だよりや食育を通して健全な食生活を実践することができる力を育む。		
	学校関係者の意見		・今後も生徒自身が感染対策を理解し実行できるように指導してほしい。 ・通学時の交通安全指導について、継続した指導をしてほしい。 ・食育は大切である。給食を通じて、食生活と健康についての指導をしてほしい。			
Ⅴ 働き方	1 ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進することができたか。		B	業務内容の平準化や精選に努め、時間外勤務が45時間を超える教員がほとんどいなかった。今後も、協働意識を高め、勤務時間を意識した働き方ができる組織の構築を図る。	A	A
	2 計画された部活動休養日等を完全実施して、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮することができたか。		A	定時制における部活動の目的を明確にし、計画された部活動休養日等を完全実施することができた。今後も生徒のニーズや心身のバランスに配慮した活動や、休養日等の完全実施に努める。		
	学校関係者の意見		・学校全体でペーパーレス化など業務改善を積極的に進め、職場環境を改善していることは大変評価できる。 ・計画された部活動休養日等を完全実施できていることは評価できる。 ・職員の心身の健康状況も留意してほしい。			